

以上は大正十二年という家なき幼稚園の最もなまなましい時代です。

先生たちも闇のなかを手さぐりで行くような心持ちであったと思いますが、それだけ純真で自由で、時間の推移にも、種目の配置にも自然さがあるとおもいます。

ただし毎日この順序で行われたものではなく、朝くるなり回遊になるかとおもうと、回遊の途中か、帰ったものもあります。

ただこの日には何をどれくらいしたかとする参考ぐらゐのものです。

時間も日記から書きとってもらった(若い先生に)のですが、決してこんなにキッチリしていません。おおよそのところを書き止めたことは前にもいった通りです。

ほんとに子どもの国を鳥瞰するだけの資料ではありますが、漠然とした中にも何物かを映出するに足りないでしょうか。

(この項つづく)

幼児の教育 第七十三巻 第八号

八月号 © 定価一七〇円

昭和四十九年七月二十五日印刷

昭和四十九年八月 一 日発行

112 東京都文京区大塚二ノ一ノ一

お茶の水女子大学附属幼稚園内

編集兼
発行者 津 守 真

111 東京都文京区大塚二ノ一ノ一

お茶の水女子大学附属幼稚園内

発行所 日本幼稚園協会

108 東京都港区三田五ノ二二ノ一

印刷所 図書印刷株式会社

101 東京都千代田区神田小川町三ノ一

発売所 株式会社 フレーベル館

振替口座東京一九六四〇番

◎本誌御購読についての御注文は発売所
所フレーベル館にお願いいたします